

夏祭り詩歌作品展

2018年8月3日（金）～31日（金）
日本現代詩歌文学館・喫茶室（フリースペース）

詩

「夏のヨヤサツサ」 小田島周子（黒岩）
「夏の夜」 兒玉智江（相去町）
「夏祭り」 齋藤駿一郎（和賀町岩崎）
「お祭り広場」 斎藤彰吾（本通り）
「子どもみこし」 高橋つか子（和賀町長沼）
「宵宮」 高橋トシ（和賀町藤根）
ギラギラと照りつける／夏の太陽を写したような／ひまわりが／咲き始めると／夏祭りだ
山下正彦（大通り）
「祭りは終わった」 渡邊眞吾（北鬼柳）
「祭りばやし」 渡邊満子（北鬼柳）

短歌

門付けに太鼓もたさる火祭りのたたかる振動からだ中なり 雨海千恵子（中野町）
帰省客迎え部落の夏祭り匂う屋台になつかしき顔 菊池キミヨ（和賀町後藤）
舞ひ終へて面を外せば乙女なり汗のしたたる顔のかがやく 菊池せつ子（川岸）
夏祭り広場に踊る剣舞の鬼のをたけび声の鋭し 菊池留蔵（和賀町山口）
笛の音の聞こえてくればそれぞれは祭りに呼ばれ独りの夕餉 澤田昌子（花園町）
迷ひ捨てほとけの教へに帰依せよと怨念断ち切る剣舞のつるぎ 高橋重光（和賀町豎川目）
魂によりそい踊る鬼剣舞地上の災い鎮めておくれ 高橋妙子（飯豊）
近づきし夏の祭りを山百合はいざなふごとく二輪咲きをり 高橋ノブ（和賀町横川目）
あまた子の鬼剣舞に風ひかり短き影も地表をおどる 高橋嘉一（二子町）
それぞれの謂はれをもとに衣装着て邪鬼を払ひし踊る剣舞 平賀登和子（和賀町豎川目）

俳句

父と子の鬼剣舞や夏祭 伊藤晴子（上江釣子）
曲線の練りゆく女神輿かな 川村健（花巻市）
山風は山に帰りぬ星まつり 菅野トシ（花巻市）
二三人神輿に肩の届かぬ子 神野富江（平泉町）
鬼剣舞三代揃ひ夏祭 澤藤佐知子（中野町）
剣舞の馴れしお囃子夏祭 菅原晶子（常盤台）
一揆の地祭太鼓の昂まれり 菅原典子（川岸）
飛入りは五つの男の子夏祭 橘千代子（花園町）
百鹿のささら連なる夏まつり 千葉和子（相去町）
たるませて隣をつなぐ祭縄 長畑とき（常盤台）
せかされて子供みこしのヨイシヨかな 松田昭子（湯沢）

川柳

百鹿の祭り太鼓の音に酔い 佐藤一夫（奥州市）
着飾った子ども剣舞大拍手 武田修（九年橋）
わが里の鬼はツノなく慈悲深く 田村義明（二子町）
暑い夜線香花火で涼を取り 筒井尚七（二子町）
大花火眼を閉じ耳に栓の孫 照井民太郎（九年橋）
星屑の降るふるさとのほたる恋う どぜう丸（若宮町）
篝火に見えかくれする鬼剣舞 むらさき（大通り）